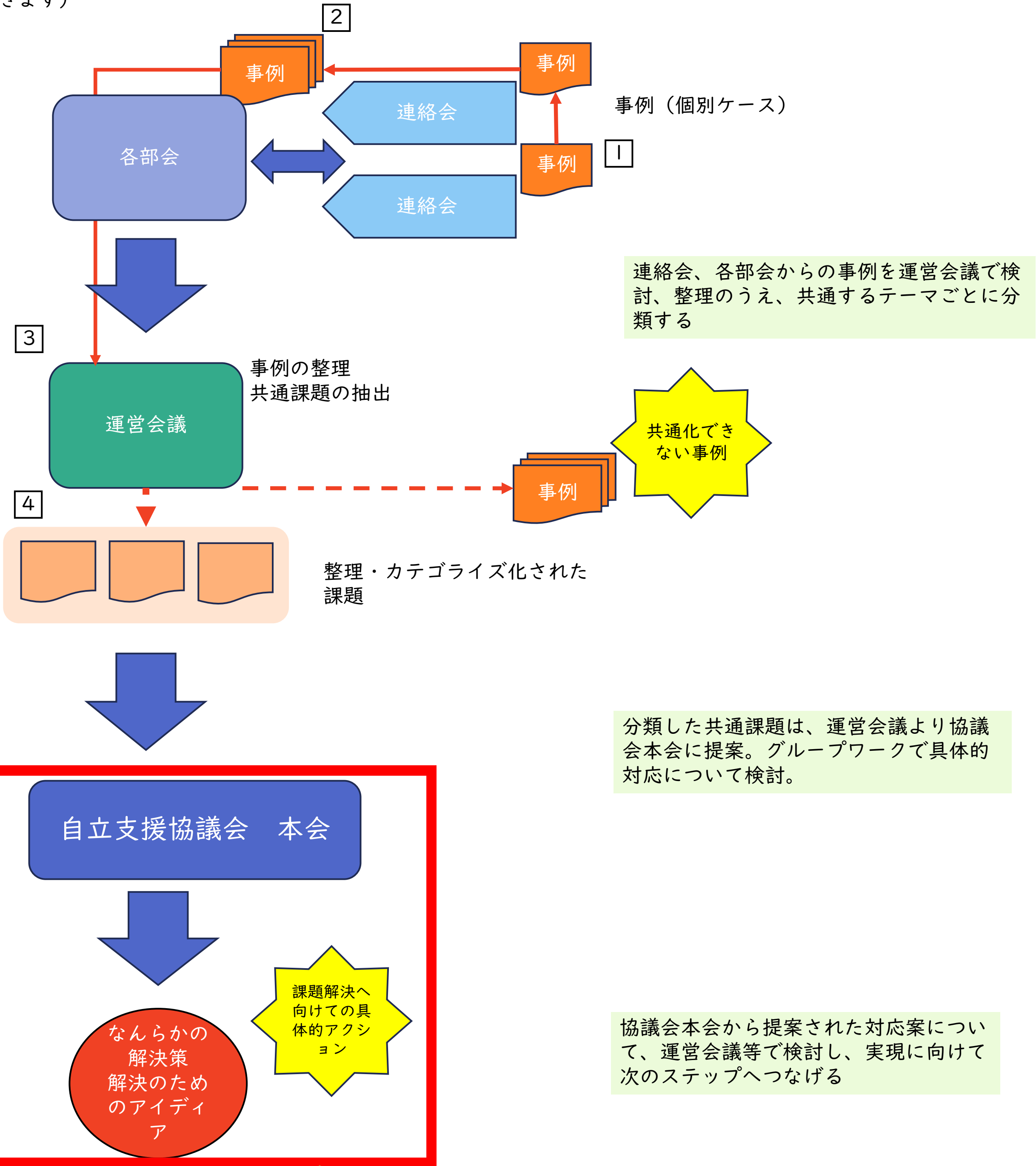


個別事例から課題を検討する流れ（Ⅰ）

今年度、協議会は、部会の構成、部会での検討内容、また本会の運営方法など、全体的な見直しを行いました。従来の障がい福祉サービス運営側からみた課題の検討ではなく、地域に暮らす人々の個々の事例から上がってくる課題を共有することで、地域の課題を分析し解決する方法を考えることを、協議会の中心的な活動と位置づけました。

各部会から事例を提供していただき、以下のような流れで検討を行います（事例の流れについては  で提示）。

（個別の事例への対応は協議会では行いませんが、個別事例を通して見えてきた障がい福祉全体の課題については、その対応方法を検討していきます）



昨年度、グループワークを通して、この部分を検討しました。
その成果について、もう少し詳しくみていきます

自立支援協議会 本会

グループ
ワーク

各部会から出された事例をもとに、
3つのテーマについてグループワークをしました

- ①切れ目の支援（学齢期→成人、成人→高齢）
- ②移動支援の課題
- ③（地域）連携の課題

なんらかの
解決策
解決のため
のアイデア

ニーズを捉える（誰のニーズなのかを明確化する）

資源を探す（地域特性、障害の枠にとらわれない資源）

情報を届ける（幅広い情報発信、モデル、事例）

誰がキーパーソンとなるか（ハブとなる機関、伴走者）

制度を活用する（制度の見直しや創出）

連携をする（具体的方法）

人材を確保する（質と量）

家族全体を見る（家族の抱える課題）

グループワークからは、事例
を解決するためのアイデア
が出されました。
協議会では8項目に整理しま
した。

個別事例への対応

事例の集約とフォローの方法の明示

ニーズを捉える	誰のニーズか	本人と家族の切り分け
	意思決定支援	
	将来を見据えた計画の作成	
	この暮らしがいつまで続くのかの見通し	
	家族に対する支援	
資源を探す	地域特性	地域ごとの資源の特徴や違いを確認する
	障害という枠ではないサービスの利用	
	資源はあるのか	
情報を届ける	協議会としての発信の方法	伝える方法、サイトの利用
	障害福祉以外の情報（介護など）	
	モデル 実際にサービスを使っている事例	
	好事例 大変な事例ではなく、うまくいっている事例を掴む	
	体験 実際にやってみないとわからない	
誰がキーパーソンとなるか	情報発信のハブとなる機関	
	身近な場所の専門職	
制度を活用する	伴奏してくれる人	
	制度の利用の周知	
	制度の見直し	
連携をする	新たな制度の創出	
	地域の資源のリスト化	
	連携の具体的方法	
人材を確保する	質を担保する	
	量を確保する	
家族全体を見る	ダブル介護などの親の持つ課題への対応	家族へのケア

グループワークで出されたことの詳細をまとめた表です

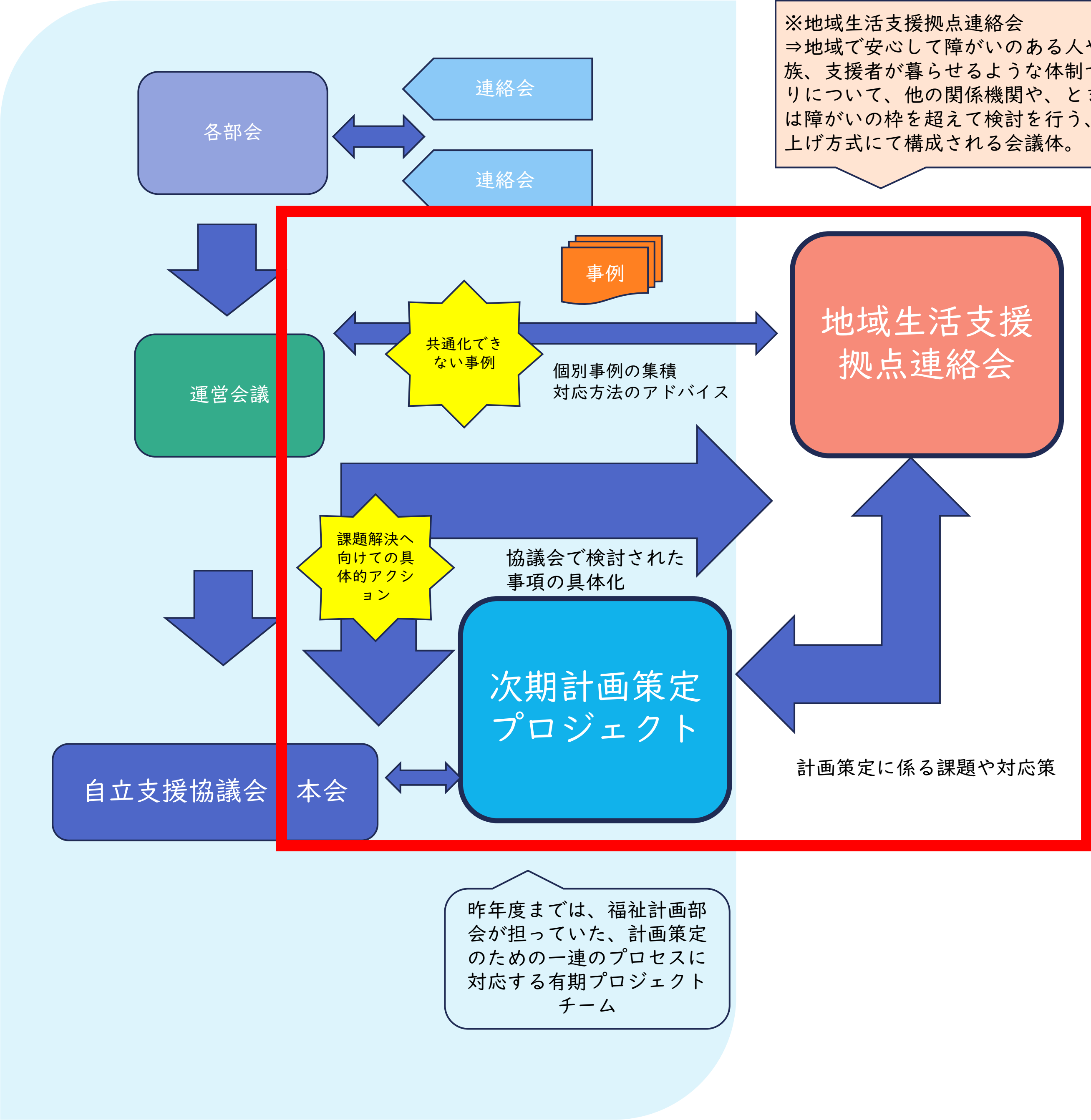
例えば、移動支援の事例の解決には、
次のような取り組み方が考えられます

ということがこの表が示していることです

では、具体的には誰が・どこが、どう動いたら良いのか
今年度の協議会ではそのことに取り組んでいきます

個別事例から課題を検討する流れ（2）

協議会で検討されたことを、具体的に進める機関として、
地域生活支援拠点連絡会 との協働
次期計画プロジェクト（協議会内）
を想定しています



2025年以降 具体的アクションの提案		
具体的方法	担当	実現させるためのポイント、課題
【本人中心のアセスメントについての総括的なセミナーの実施】 ・根拠：協議会のグループワークからの提案 ・内容：アセスメントの視点を確認するための事例検討の有効性 ・セミナーをふまえ、現場で取り組みやすい事例検討の方法について提案。	・基幹(年間計画に組み込む)	
【本人：将来について考えられる機会の設定】	・基幹(本人向けセミナーの企画)	・「あなたの人生おしえてゲーム」の活用？
【親：親教育プログラムの実施】	・基幹(家族向けセミナーの企画)	
【出前勉強会の実施】 ・希望する事業所に事例検討を進めるファシリテーター2名を派遣 【事例検討会の定例化】 ・協議会や地域生活支援拠点連絡会で上がってきた事例は事例検討会の実施を定例化	—	・【予算】区内の事業所スタッフに頼む場合は、報酬の支払いが必要→計画化？
【支援のチェックポイントリスト化】 ・本人中心、地域生活ベースのアセスメントについて整理している文献の収集 ・渋谷にあったチェックリストの作成	・地域生活支援拠点連絡会 ・くらし部会長、相談支援部会長 ・会長	
【軽度、境界領域の方の移行支援】→学校との連携？	—	
【地域ごとの資源リストの作成と地域力評価】 ・地域の設定（障害福祉の4地域か、地域包括の8地域か） ・資源と地域力評価のリスト作成（ハードとソフト）	—	例えば、他自治体実施の調査資料を参照 https://www.fukushi-shimane.or.jp/_assets/page_files/files/000/025/158/52b231c98dd6e792ea55b79b88f90da4864266c5/1561_1_.pdf?1612508810
・障害に限らず他の資源も含めたアセスメント、リストの作成	—	
	—	
	・基幹	
【テーマを決めた事例、情報収集】 ・高齢福祉サービス併用・移行、地域移行、退院援助など ・計画相談、事業所、地域生活支援拠点連絡会等からの事例収集 ・事業所アンケートへの組み入れとFormsの活用	・基幹 または ・地域生活支援拠点連絡会	
グループホーム、施設から地域へなどケースをきめ、実際にチームを作って移行支援を実施する。	・モデル協力者と計画相談事業所 ・サービス調整会議	・【予算】協力者を探すことと、地域移行を支援するチームメンバーへの報酬

具体的なアクションや実現のための課題についての協議会運営会議からの提案です

今年度協議会で検討し、具体的なアクションへと進めます

個別事例からあがった地域課題に挑む

- ・2024年度の協議会では、各部会から出された事例をもとに3つの観点よりグループワークを実施(①切れ目の支援（学齢期→成人、成人→高齢）、②移動支援の課題、③（地域）連携の課題)。課題解決のポイントや挑み方を整理(表左半分「2024年課題の分析」)
- ・2025年度の協議会では、2024年度に整理した課題解決のポイント、挑み方をもとに、庁内の様々な部署や機関との具体的な取組方法を提案(表右半分「2025年以降具体的なアクションの提案」)。進捗状況や課題について報告を受け検討する機会を設ける予定。

2024年課題の分析				2025年以降 具体的なアクションの提案		
グループワークで出されたアイデア		挑み方（案）		具体的方法	担当	実現させるためのポイント、課題
ニーズを捉える	誰のニーズか	本人と家族の切り分け	支援をよくする勉強会の実施（個人・事業所レベル）〔協議会主催〕	【本人中心のアセスメントについての総括的なセミナーの実施】 ・根拠：協議会のグループワークからの提案 ・内容：アセスメントの視点を確認するための事例検討の有効性 ・セミナーをふまえ、現場で取り組みやすい事例検討の方法について提案。	・基幹(年間計画に組み込む)	・「あなたの人生おしえてゲーム」の活用？
	意思決定支援	将来を見据えた計画の作成 この暮らしがいつまで続くのかの見通し	ライフステージごとの希望や目標を踏まえた将来計画の作成			
	家族に対する支援	親教育	親教育プログラム、メンター	【本人：将来について考えられる機会の設定】	・基幹(本人向けセミナーの企画)	
				【親：親教育プログラムの実施】	・基幹(家族向けセミナーの企画)	
ニーズを捉える			出前勉強会の実施	【出前勉強会の実施】 ・希望する事業所に事例検討を進めるファシリテーター2名を派遣 【事例検討会の定例化】 ・協議会や地域生活支援拠点連絡会で上がってきた事例は事例検討会の実施を定例化	—	・【予算】区内の事業所スタッフに頼む場合は、報酬の支払いが必要→計画化？
			支援のチェックポイントのリスト化（事業所レベル）	【支援のチェックポイントリスト化】 ・本人中心、地域生活ベースのアセスメントについて整理している文献の収集 ・渋谷にあったチェックリストの作成	・地域生活支援拠点連絡会 ・くらし部会長、相談支援部会長 ・会長	
	サービスに繋がらない人（制度のはざま）			【軽度、境界領域の方の移行支援】→学校との連携？	—	
資源を探す	地域特性	地域ごとの資源の特徴や違いを確認する		【地域ごとの資源リストの作成と地域力評価】 ・地域の設定（障がい福祉の4地域か、地域包括の8地域か） ・資源と地域力評価のリスト作成（ハードとソフト）	地域生活支援拠点連絡会	例えば、他自治体実施の調査資料を参照 https://www.fukushi-shimane.or.jp/_assets/page_files/files/000/025/158/52b231c98dd6e792ea55b79b88f90da4864266c5/1561_1_.pdf?1612508810
	障害という枠ではないサービスの利用	高齢者サービス等との共同での利用や資源の活用		・障害に限らず他の資源も含めたアセスメント、リストの作成	—	
	資源はあるのか	住まい方のモデルの提			—	

個別事例からあがった地域課題に挑む

- ・2024年度の協議会では、各部会から出された事例をもとに3つの観点よりグループワークを実施(①切れ目の支援（学齢期→成人、成人→高齢）、②移動支援の課題、③（地域）連携の課題)。課題解決のポイントや挑み方を整理(表左半分「2024年課題の分析」)
- ・2025年度の協議会では、2024年度に整理した課題解決のポイント、挑み方をもとに、庁内の様々な部署や機関との具体的な取組方法を提案(表右半分「2025年以降具体的なアクションの提案」)。進捗状況や課題について報告を受け検討する機会を設ける予定。

2024年課題の分析				2025年以降 具体的なアクションの提案		
グループワークで出されたアイデア		挑み方（案）		具体的方法	担当	実現させるためのポイント、課題
情報を届ける	協議会としての発信の方法	伝える方法、サイトの利用	協議会としての情報発信方法の検討	【テーマを決めた事例、情報収集】 ・高齢福祉サービス併用・移行、地域移行、退院援助など ・計画相談、事業所、地域生活支援拠点連絡会等からの事例収集 ・事業所アンケートへの組み入れとFormsの活用	・基幹 ・地域生活支援拠点	
	障害福祉以外の情報（介護など）		地域生活支援拠点の面的整備との連携		・基幹 または ・地域生活支援拠点連絡会	
	モデル 実際にサービスを使っている事例		モデル事例づくり		・モデル協力者と計画相談事業所 ・サービス調整会議	
	好事例 大変な事例ではなく、うまくいっている事例を掴む			グループホーム、施設から地域へなどケースをきめ、実際にチームを作って移行支援を実施する。		・【予算】協力者を探すことと、地域移行を支援するチームメンバーへの報酬
	体験 実際にやってみないとわからない		青年期からの（グループホームなどの暮らしの）体験によるアセスメント			
	情報発信のハブとなる機関		地域包括支援センターなど既存の機関の活用		・モデル協力者と計画相談事業所 ・サービス調整会議	
誰がキーパーソンとなるか	身近な場所の専門職		地域福祉コーディネーターの活用	【既存の機関の情報発信方法のリスト作成】 ・情報を一元化し、アクセスしやすい資料として編集 ・Formsによる情報収集	地域包括支援センター相談員？	基幹が実施する、もしくは独自でformを作成し実施するか、来年度の調査の中でコンサルにやってもらう 【予算】 【参考】練馬区「まなぶのトビラ」このイメージでしょうか？ https://nerimanabi.jp/
	伴走してくれる人					
制度を活用する	制度の利用の周知			【障がい福祉計画作成のためのアンケート】 ・誰に相談するのかについての設問を設定 ・事業所所属の支援者以外で相談できる人の有無、利用者の行動とその理由を把握 ・アンケート結果をもとにコーディネータへの提案、依頼	・計画策定プロジェクト ・地域福祉コーディネーター？	アンケート結果をもとに、地域福祉コーディネーター、地域生活支援コーディネーターを動かすことができるのか？
	制度の見直し		サービス支給量の不足			
	新たな制度の創出		経済的サポート			
				【支援フローの作成】 ・必要な支援が実現できない場合のフローの作成 ・計画相談や事業所が動きやすい仕組みの提示（その中に制度創設のためのアクションも提示する）	・基幹相談支援センター ・障がい福祉計画検討プロジェクト	

個別事例からあがった地域課題に挑む

- ・2024年度の協議会では、各部会から出された事例をもとに3つの観点よりグループワークを実施(①切れ目の支援(学齢期→成人、成人→高齢)、②移動支援の課題、③(地域)連携の課題)。課題解決のポイントや挑み方を整理(表左半分「2024年課題の分析」)
- ・2025年度の協議会では、2024年度に整理した課題解決のポイント、挑み方をもとに、庁内の様々な部署や機関との具体的な取組方法を提案(表右半分「2025年以降具体的なアクションの提案」)。進捗状況や課題について報告を受け検討する機会を設ける予定。

2024年課題の分析				2025年以降 具体的なアクションの提案		
グループワークで出されたアイデア		挑み方(案)		具体的方法	担当	実現させるためのポイント、課題
連携をする	地域の資源のリスト化			地域アセスメントの項	・地域生活支援拠点等	
	連携の具体的方法	民間営利セクターの活用、互助の仕組みづくり	ライドシェア、民間のタクシー会社、バス会社の活用	【重層的支援体制整備との連携】 ・連携課題について共同で取り組む仕組みづくり	・結・しぶや	重層的支援体制と障がい福祉の連携
		関連協議会等との連携	居住支援協議会		ー	
		教育分野とのつながり	特別支援学校、学童保育	【渋谷区子ども・子育て会議との連携】 ・障害児計画と渋谷区子ども・子育て支援計画の連動	・ネウボラ	保育課と障がい者福祉課の連携
		医療分野とのつながり	地域の病院			
人材を確保する	質を担保する	事業者間による支援者育成の仕組みづくり	日中活動の支援者との連携	【バディ制度の導入】 ・中核支援施設のスタッフが、他事業所のスタッフに必要なスキルをアドバイスできる仕組み	・各計画相談事業所?	【予算】アドバイスするスタッフへの報酬
		サポート側のネット				
	量を確保する	区独自の政策の単価の検討		【支援者確保のための独自加算】 ・地域生活支援事業に区独自の加算をつけるなど、支援者を確保しやすい仕組みづくり ・根拠となるニーズ、データ収集	・障がい福祉計画検討プロジェクト	【予算】
家族全体を見る	ダブル介護などの親の持つ課題への対応		家族へのケア			
事例の扱い	各部会や連絡会で提出された事例についての対応の方法		提供された事例のフォロー	各部会が出された事例の概要は事務局で集約		相談支援事業所や基幹相談支援センターの専門性の担保と、区側の理解
				フォローの必要性、対応方法について、地域生活支援拠点連絡会と連携して対応		
				・制度の対象外、サービス量の不足などの場合 ・支援の伴走が必要な場合 ・制度がない、障害福祉分野だけでは対応が難しい場合 それぞれの場合の解決のためのルートの提示 移動支援などの運用マニュアルの見直し		